

どうして行われるようになったの？

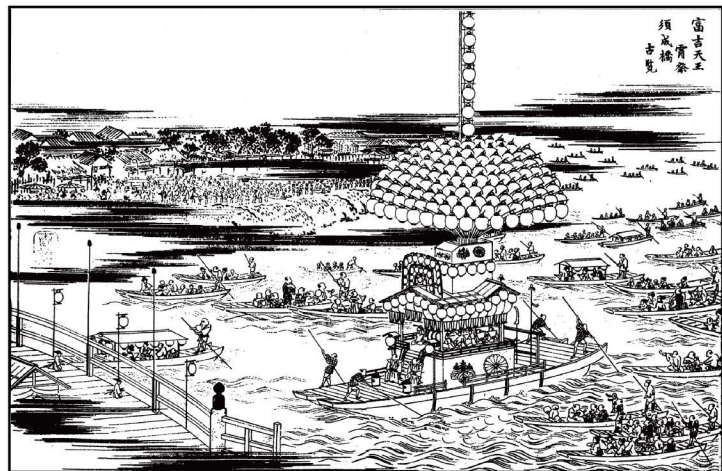
須成祭は人々が病氣にならないようにという思いをこめて行われる祭りです。蟹江町にはたくさんの川が流れています。昔は、大雨がふったりするとすぐに川があふれるなどして、病氣がはやることも多かったそうです。そこで、神様におねがいするために船を川に浮かべて祭りをし、ヨシに病氣などの悪いことをたくして流す「みよしながし」を行うようになったのではないかと思います。



80年ぐらい前の「みよしながし」の様子

いつから行われているの？

須成祭は、400年あまり前から行われてきたとされています。今から350年ぐらい前の文書にも、船を出して祭りを行っていたと書かれています。200年ぐらい前の書物には、今と同じような祭り船のすがたがえがかれています。これからも、ずっとつづけられるようにしたいものです。



『尾張名所図会附録』（今から200年ぐらい前の書物）にえがかれた須成祭

まつりを見に行ってみよう！

須成祭は、「よいまつり」と「あさま祭り」が一番のみどころですが、その前後にも、祭りの場面を体感できる行事があります。

●葭刈（よしかり） 7月さいごの日曜日

午前7：00 天王橋出発→蟹江川下流

*手こぎの小さな舟で、白い服の若衆たちが蟹江川を下っていく姿が見られます。



●宵祭（よいまつり） 8月第一土曜日

午後7：30 公民館で、やどばやし

8：15 船出発（須西小となり）

9：10ごろ 船、天王橋（神社のとなり）へ



●朝祭（あさま祭り） 8月第一土曜日の次の日

午前9：30 船出発（須西小となり）

10：20ごろ 船、天王橋へ

10：30ごろ 神社で天王ばやし

*「ちこ」たちが、いったん船からおり、行列をつくり神社へ行き、祭りばやしを奉納（ほうのう）します。

10：45ごろ 投げ花（上げ花の儀）



●御神葭棚（おみよしだな）

8月中はじめ～10月中旬ごろ

*神社にたてられた、たなに、「おみよしさま」がまつられています。これも祭りの大事な一場面です。



祭り船はここから来ます。

よしかりは、ここから出発。おみよしだなはここにたてられます。

祭り船はここから出発。

知ってみよう！

須成祭

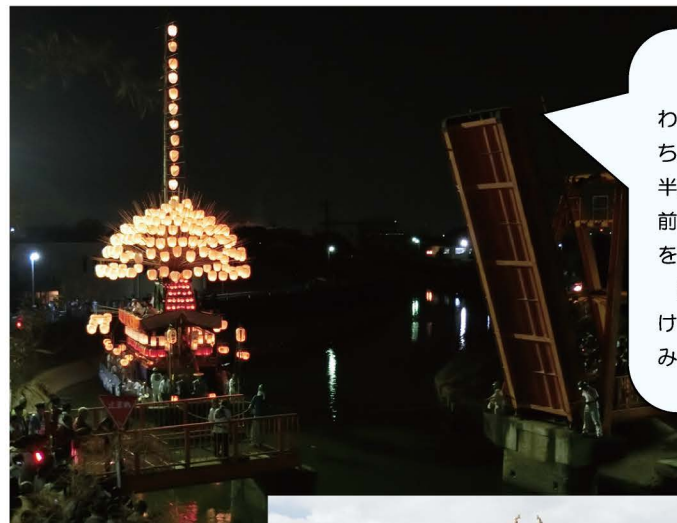


蟹江町歴史民俗資料館

須成祭（すなりまつり）って、どんな祭り？

須成祭は、須成富吉建速神社（とみよしただけはやじんじゃ）・八剱社（はちけんしゃ）の祭りで、8月に「宵祭（よいまつり）」と「朝祭（あさま祭り）」が行われる夏祭りです。

「よいまつり」では、ちょうちんをたくさんつけた「まきわら船」が、「あさま祭り」では、人形をのせ、紙で作った花でかざられた「だんじり船」が蟹江川に浮かべられ、祭りが行われます。美しい祭りの様子を見ようと、多くの人がおとずれます。



「よいまつり」の、まきわら船の、たてに長い柱のちょうちんは一年の月数、半球のものは一年の日数、前の赤いものは一月の日数をあらわしています。祭りの時にだけ、川にかけられた橋が上がるのも、みどころです。

「あさま祭り」では、人形と紙で作った花をのせた、だんじり船が川に浮かびます。祭りの終わりごろには、船をかざる花を投げる、「投げ花」が行われます。



いつ、どんな行事があるの？

「よいまつり」が8月第1土曜日、「あさまつり」はその次の日に行われます。そのほかにもいろいろな行事があり、それが7月から10月までの100日の間に行われることから、「100日祭り」ともいわれています。

須成祭では、船を出す「よいまつり」や「あさまつり」といった、乗船行事（だんじりぶねぎょうじ）とともに、川に生える植物である“ヨシ”に、わるいことをたくして流す「神葭流し（みよしながし）」にかかわる行事が行われます。そのおもな行事は次の表のとおりです。

日程	乗船行事 (だんじりぶねぎょうじ)	神葭流し (みよしながし)
あさまつり 22日前 (7月中旬ごろ)	稚児定め（ちごさだめ） 祭り船に乗る子ども6人が決まります。 	
あさまつり 14日前	宿入り（やどいり） 祭りの役者たちがはじめて宿に入る行事です。 	
あさまつり 7日前	船がらみ 祭り船の組み立てをします。 	葭刈（よしかり） 小さな舟で川を下り、川岸に生える「ヨシ」をかりとってきます。 

あさまつり 1日前 (8月第1土曜日)	みそぎ 船に乗る大人の役者たちが、水をあびて体をきよめます。 	
	天王参り（てんのうまいり） 役者が行列をつくり神社におまいります。 	
	宵祭（よいまつり） ちょうちんをかざった、まきわら船が川に浮かびます。 	祭りの時、ヨシを丸くたばねた「おみよしさま」がご神体として神社にまつられます。 
あさまつり 当日 (8月第1土曜日の次の日)	山起し（やまおこし） 夜中に船のかざりつけが、かえられます。 	
	朝祭（あさまつり） 人形をのせた、だんじり船が川に浮かびます。 	

あさまつり 1日後		神葭流し（みよしながし） おみよしさまに、災厄（さいやく）をたくして川に流します。 
あさまつり 2日後		棚上り（たなあがり） おみよしさまを、たなに上げてまつります。この日から毎日、地区の人たちは交代で、たなにおまいります。 秋祭りの時には、「子ども獅子」も奉納されます。 棚下し（たなおろし） たなの上のおみよしさまを、下ろしてもやし、全ての行事が終わります。 
あさまつり 77日後 (10月おわり)		

ユネスコに登録！

須成祭は、さまざまな行事が昔からかわらずつづけられていることや、日本の夏祭りを知るうえで大切な祭りであるということから、2012年に、国の重要無形民俗文化財（じゅうようむけいみんそくぶんかざい）になりました。

さらに、2016年、須成祭をふくむ日本の33のまつりが「山・鉾・屋台行事（やまほこやたいぎょうじ）」として、ユネスコ無形文化遺産（むけいぶんかいさん）にとうろくされました。これは、その土地ならではの文化や、祭りをささえるために人々が力をつくしてきたことが、世界のなかでみとめられたということです。

どんな人たちが参加するの？

祭りの役者は、その年ごとにえられます。主な役は次のとおりです。

	役名	人数	主な役目
祭三役 まつりさんやく	宿大将（やどだいしょう）	1	祭りをとりしきる
	祭総代（まつりそうだい）	2	
若衆 わかしゅ	車大将（くるまだいしょう）	2	船のせきにん者
	山乗（やまのり）	6〜8	船の屋根の上に乗る
	葭刈（よしかり）	6	よしかり・たなあがり・たなおろしなどを担当
稚児 ちご	一稚児（いちちご）	1	神様のよりまし
	二稚児（にちご）	1	
	一なす（いちなす）	1	おおど 大鼓をたたく
	二なす（になす）	1	
	太鼓（たいこ）	1	小だいこをたたく
	楽（がく）	1	大だいこをたたく
	笛吹（ふえふき）	1〜3	笛をふく

「まつりさんやく」は、まつりのことをよく知っている年配の人、「わかしゅ」は、二十才をすぎた青年、6人の「ちご」は、子どもが役目をつとめます。「ふえふき」は、笛のふける人がつとめます。「ちご」には、それぞれ6人から8人のおともがつくので、祭り船に乗るのは、50人いじょうになります。船に乗る人は、みんな男の人です。

祭りのじゅんぴやうんえいは、須成文化財保護委員会が行っており、須成祭は、たくさんの人たちにささえられています。

